



北海道大学

「キャンパスマスタープラン96」基本骨格図

アカデミックプランとキャンパスマスタープラン

アカデミックプランの 基本理念

- フロンティア精神
- 国際性の涵養
- 全人教育
- 実学の重視



キャンパスマスタープラン2006の目標

- 【CMP96の継承】
- 研究・教育する「人間」の場としてのキャンパス
 - 社会との関連を持たせたキャンパスへの展開
 - 都市の中の都市としてのキャンパス
 - 固有ランドスケープの継承
 - 歴史的キャンパス構成の継承と展開
 - 国際的研究、競争が行える施設・環境づくり

+

- 【CMP2006の新たな視点】
- 卓越した研究拠点、人材育成機能を重視した学術研究の基盤整備
国際的研究、教育に対して十分な競争力を持った施設・環境の整備
 - 学術的な革新を支える環境づくり
豊かで質の高いキャンパスライフを提供できる環境づくり
 - 「持続可能な発展(Sustainable Development)」
文化資源等を含めた環境の維持・管理の実現

キャンパスマスタープラン2006の構成原理

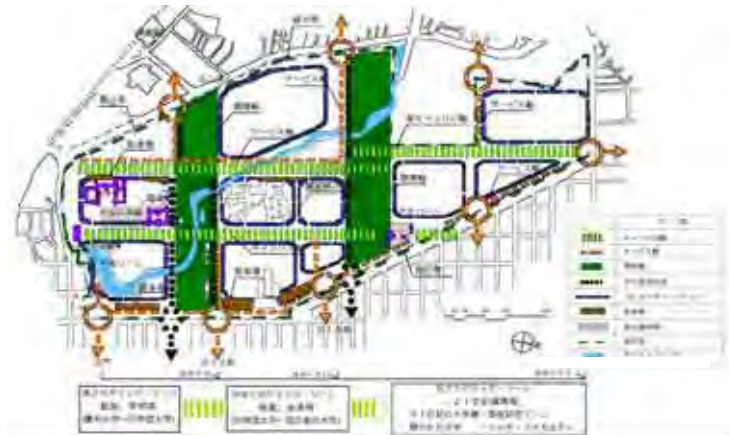
キャンパスマスタープラン96の
骨子と基本的骨格の継承

+

- ・ サスティナブル
- ・ 施設・環境のマネジメント

キャンパスマスタープラン96のキャンパス基本的骨格の継承

- ・ 南北のキャンパスの統合
- ・ キャンパス軸
- ・ 環境軸
- ・ 軸による基本的骨格の形成
- ・ サービス軸
- ・ キャンパスへのアクセsgateの新設



キャンパスマスタープラン96 キャンパス基本骨格図

アクションプラン (2)

環境のガイドライン

- 緑地の保全と利活用のガイドライン
 - ・ 樹木と草地を一体化した保全と利活用のガイドラインの設定
 - ・ 自然資源と歴史的資産の両者の保全を重視するゾーンの設定
 - ・ 歴史的景観の保全を重視するゾーンの設定
 - ・ レクリエーション利用や移動に伴う沿線景観の保全を重視するゾーンの設定



景観のガイドライン

- 景観
 - ・ 沿道景観を重視するゾーン
 - ・ 面的景観を重視するゾーン
 - ・ 自然生態の景観を重視するゾーン
 - ・ 歴史的景観を重視するゾーン
 - ・ 水系の骨格
- サイン
 - ・ キャンパス全体で統一のとれたサインシステムを構築
 - ・ 看板等を設置するためのデザインガイドラインの設定



建物のガイドライン

サスティナブル建築のための5つの柱

1. 省エネルギー

キャンパス全体の環境負荷低減を図るため、室内環境のための負荷要素を低減し、室内温熱環境の質的向上と消費エネルギーの削減、さらに自然エネルギーの有効利用を重視

2. 長寿命化

キャンパスのサスティナブルな発展を可能にする、躯体、設備の長寿命化と、経年劣化等の外的要因のみならず、研究内容等の変化に対応するフレキシビリティを確保

3. エコマテリアル

キャンパス建築が、環境配慮型建築のモデルとなるような、環境負荷の少ない材料の採用、地場産出資材の積極的な活用

4. 環境保全・景観形成

キャンパス内自然環境の保全、キャンパス全体の景観形成に寄与

5. 安全

学校建築として要求される建物自体の安全性の確保と、研究・実験環境としての安全性を確保

アクションプラン（1）

動線計画

- **キャンパスマスタープラン96の継承**
 - ・自動車交通の総量
 - ・トラフィックセル
 - ・歩行者ネットワーク
- **具体的な計画目標**
 - ・教育研究の舞台となる空間に相応しい道路空間整備
 - ・活発な教育研究活動、アクティブなキャンパスを支援する動線整備
 - ・良好な交通環境を持続的に維持する管理政策の実現
 - ・学内と学外の連絡をスムーズにし、開かれたキャンパスを支える交通計画



キャンパスの環境品質・性能

- **自然環境**
 - ・都市における緑地・水系としての位置付け
 - ・緑地管理を基本とした緑地系のゾーニング
 - ・水系の骨格とその周辺整備
 - ・北キャンパスの土地利用における自然環境の保全
- **キャンパス資源の利活用（歴史的建造物・埋蔵文化財）**
 - ・歴史的建造物の価値や質を活かした活用
 - ・歴史地区の魅力を生かしたオープンスペースの整備
 - ・保存改修・活用に関わる評価および指針検討機構
 - ・各種指定登録制度の積極的活用
 - ・歴史地区の維持管理運営財源を確保する仕組みづくり
 - ・埋蔵文化財発掘に関わる年次計画をエリアごとに策定



持続的発展を支える視点

キャンパスの持続的発展

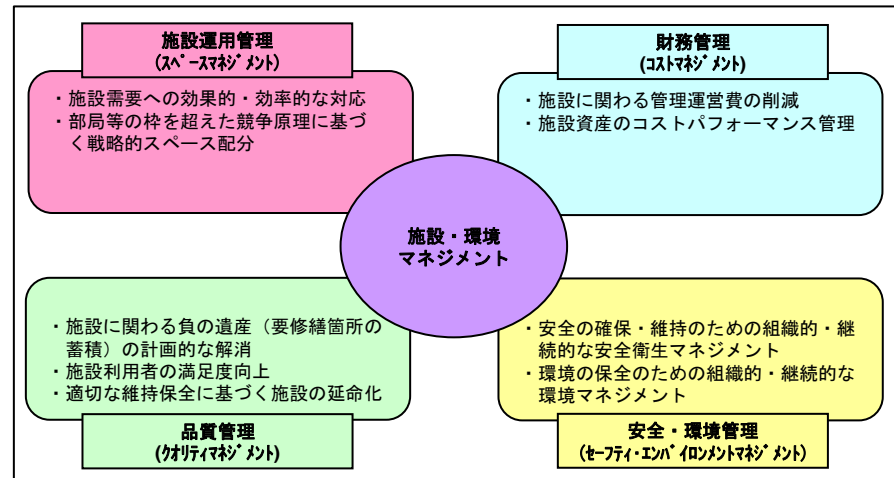
- **環境**
 - ・環境の保全、エネルギー消費の軽減、周辺地域への配慮
- **活動**
 - ・変化に柔軟に対応する施設環境整備のプログラム
- **組織**
 - ・大学構成員の共通理解、時間軸を見据えた実現のプログラムと段階性を持ったアクションプラン
- **経営**
 - ・持続的な教育を展開する基盤づくり、新たな文化創出の場づくり

大学と都市の連携

- **大学と地域が共に持続的な発展を進めることができる大学と都市の連携計画**
 - ・人材交流、人材育成など大学と地域が一体となって実施
 - ・地域連携による環境整備計画
 - ・連携に対する大学の窓口と組織の明確化・強化
- **空間的連携、ソフト的連携の検討**
- **民間企業等と協働できる事業の検討**
- **現代G P (Good Practice)、都市再生プロジェクト等への積極的参加**

施設・環境マネジメント

土地・建物・環境等を教育研究活動が行われる経営資源として捉え、戦略的かつ効率的に活用し、快適かつ安全に維持するために実施



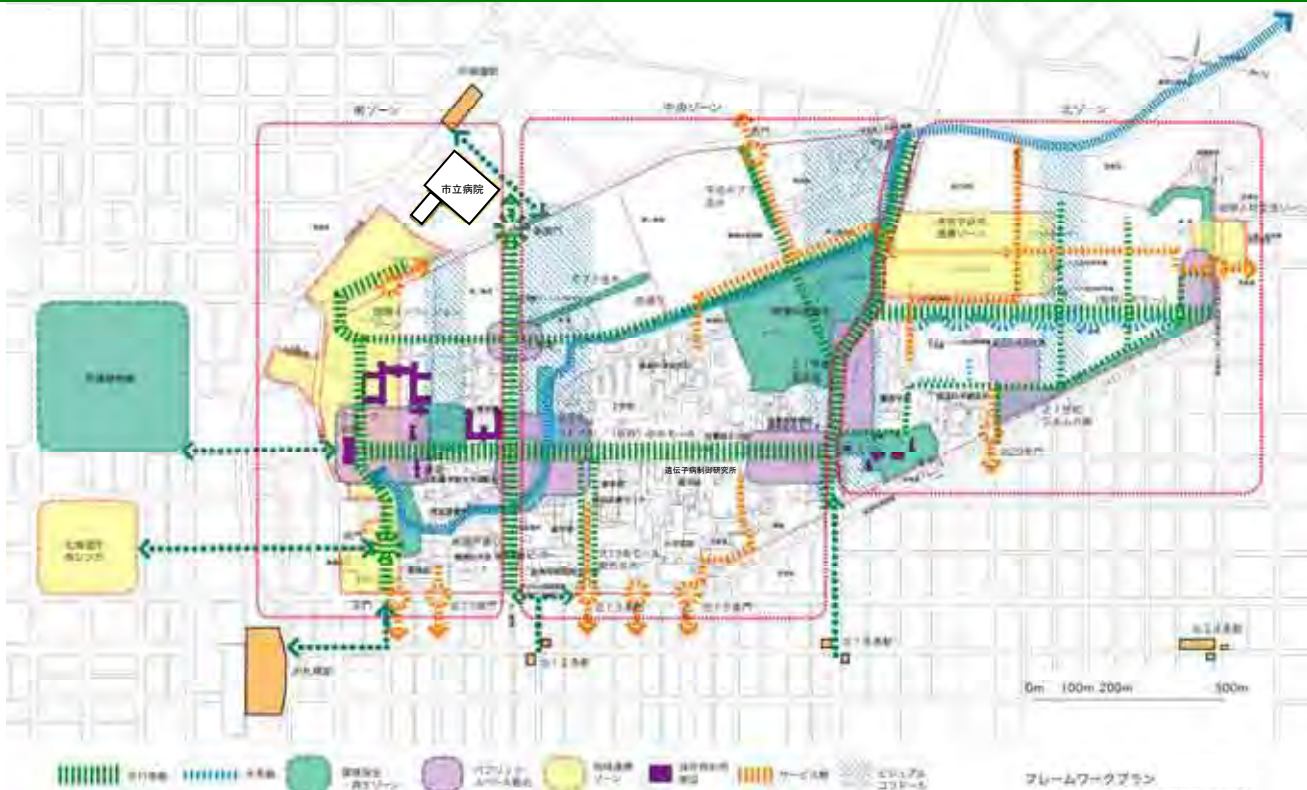
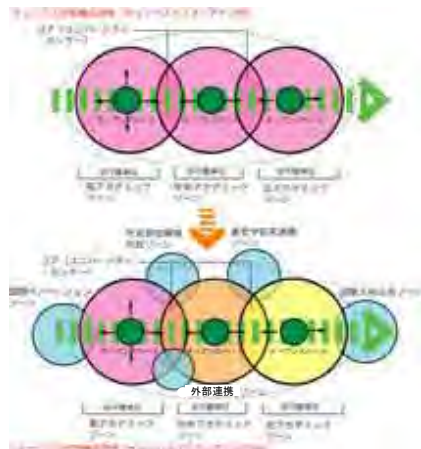
施設・環境マネジメントの目標

- **大学全体としての中長期的施設整備計画の立案**
 - ・計画づくりからヒアリング、フィードバックのシステムを確立
 - ・各部局の戦略を大学全体の戦略にする
- +
- **財源の多角的な確保**
- +
- **施設有効利用のルールづくり**
 - ・共用、共同利用のルールの再確認と徹底化

フレームワークプラン

●キャンパスマスタープラン2006の空間原理

- ・北キャンパスの空間的位置付け
- ・歩行圏として完結しうる教育・研究の場（アカデミック・ゾーン）の空間的構成
- ・全学共用施設を中核として構成されるユニバーシティセンターの空間的構成
- ・新たな構成単位としてのコミュニティ・ゾーン
- ・国際交流ゾーンの明確な位置付け
- ・周辺地域と連携した土地利用
- ・新たな構成単位としてのコミュニティ・ゾーン



●キャンパスマスタープラン2006の空間計画

- ・96で示された3つのアカデミックゾーンを大きな骨格とし、現在まで蓄積してきた空間的特徴を活かした整備
- ・パブリックスペースを核としたユニバーシティセンターを各ゾーンに配置



<h3>ゲートとトラフィック・セル</h3> <p>ゲートより近傍のゾーンにのみアクセス可能で、キャンパス内の通過交通を排除するトラフィック・セルを完成させ、車両動線の骨格とする。</p>	<h3>歩行者動線のネットワーク</h3> <p>中央通と西通りを基軸として、歩行者動線のネットワークをつくり、キャンパス空間の新たな骨格とする。</p>	<h3>パブリックスペース拠点</h3> <p>様々な交流がおこるハブは、パブリックスペースとして位置付け。キャンパス空間の骨格としてビジュアルコリドールを設け、保全できるような施設配置計画をとる。</p>
<h3>自然・生態環境の骨格</h3> <p>キャンパスの持続的な発展を目指すために、生態環境の保全・再生とともに、ネットワークによる空間構成のルールの一つとして位置づける。</p>	<h3>地域連携ゾーン</h3> <p>地域と連携しながら整備していくゾーンを定め、大学キャンパスと周辺地域の相互のニーズを達成する整備や機能の配置を行う。</p>	<h3>施設・環境マネジメント単位</h3> <p>南・中央・北の3つのゾーンを施設・環境マネジメントの単位として捉え、計画・実現を図る。</p>

マスタープランづくり関係者

Executive Administrators	最高責任者（学長、総長）
University Planning Staff	大学側プランニングスタッフ
Planning Working Committee	推進委員会
Advisory Committee	諮問委員会
User Groups – Focus Groups	ユーザーグループ、フォーカスグループ
Campus Stakeholders	ステークホルダー・グループ
Local Community	地元コミュニティー
Consultants	コンサルタンツ

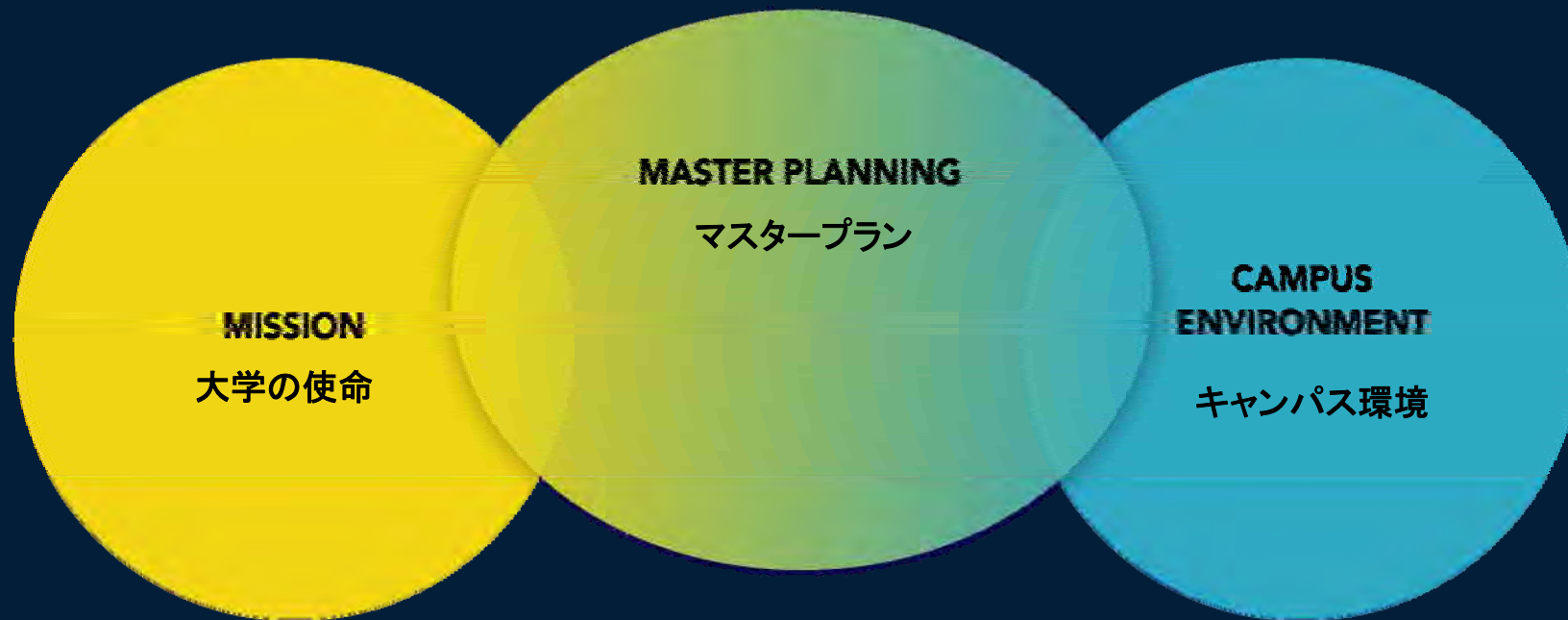
Aspects of Master Planning Essential for Success

マスタープラン成功の秘訣

1. オーソライズされた策定プロセス
2. リーダーグループに認証されたプロセス
3. マスタープランづくりに参加する人々の多様性
4. 戦略的プログラミング
5. 総合的視野と専門的視野に立った複眼的プラン

計画プログラムの構成要素

Enrollment and Staffing Assumptions	入学者数とスタッフ数
Research Activity	研究活動
Private Funding	私的資金(助成)
Comparison to Guidelines	ガイドラインとの照合
(Council for Educational Facilities Planners International [CEFPI])	
Comparison with Peer Institutions	他大学との比較
Strategic Priorities:	優先順位の戦略的決定
<ul style="list-style-type: none">– Student Recruitment and Retention– Pedagogical Objectives– Student Residency Goals– Facilities Renovation Needs– Technology	学生の獲得と保留 教育方針 学生宿舎目標 施設改善の必要度 技術対応



General

**Verbal description
of purpose**

Literal

Specific

Sensory experience

Symbolic



最近のアメリカのキャンパス

空間性の回復

The American Campus Today, Restoring a Sense of Place



1950 - 1985 年

Focus on architecture without landscape **ランドスケープ無しで建築が主体**



1950 - 1985 年

Loss of human scale and community focus **失われたヒューマンスケール**



1950 - 1985 年

Automobile dominance 車主導

Place-making on Campus : Today's Issues

キャンパス空間づくり : 今日の課題

Campus Image

キャンパスイメージ

Places that Bring People Together

人と人を結ぶ空間

Walking Community

歩行圏コミュニティー

Connections to the City

都市との連携

Landscape Quality

ランドスケープの質

Vehicle Pedestrian Balance

歩車のバランス

Quality of Student Life

キャンパス生活の質的環境

Connection to Environment

自然環境との融合



人と人をむすぶ空間

Places that Bring People Together

ミシガン州立大学

Michigan State University



Harvey Mudd College
ハーヴェイマッド カレッジ



University of Colorado
コロラド 大学

人と人をむすぶ空間
Places that Bring People Together



歩行圏コミュニティ
Walking Community

ペンシルバニア州立大学
Pennsylvania State University



都市との連携
Connections to the City

ユニバーシティパーク / MIT
University Park / MIT



都市との連携

Connections to the City



リサーチパーク

Wake Forest/Piedmont Triad Research Park



ランドスケープの質
Landscape Quality

ペンシルバニア州立大学
Pennsylvania State University



ランドスケープの質
Landscape Quality

ヴァッサー カレッジ
Vassar College



Before



歩車のバランス
Vehicle Pedestrian Balance

ミシガン州立大学
Michigan State University



University of New Hampshire
ニューハンプシャー大学



University of Maryland



University of Maryland
メリーランド大学

キャンパス生活の質的環境
Quality of Student Life



キャンパス生活の質的環境
Quality of Student Life

サンフランシスコ州立大学
San Francisco State University

なぜキャンパス計画が・・・これから・・・重要か？

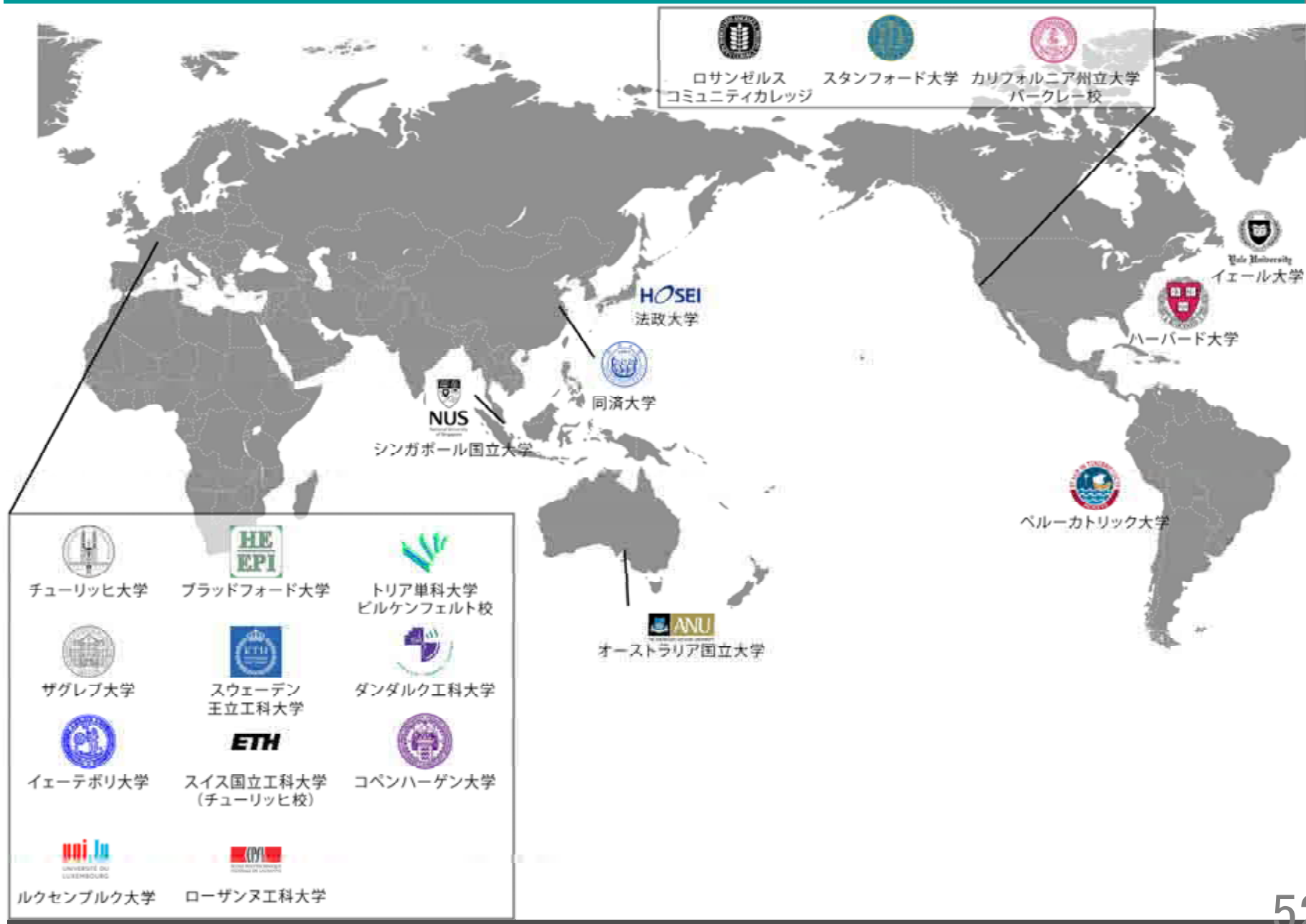
学外的

1. 大学の使命とその姿の確立と明示
2. 大学への投資の内容と成果を解り易く国民へ開示
3. 社会貢献・連携の内容と環境の具体化
4. 民間資金導入に結びつける大学意思の明確化／寄付金を募るときの指針
5. G8大学サミット（札幌サステイナビリティ宣言）の具体化

学内的

6. 大学改革の理念と達成目標（中期計画・中期目標）との対応
7. リーダーシップの構想・戦略・責任を明示
8. 施設実態調査の実行と中長期的な維持管理と整備額の共有化
9. キャンパス整備における整備優先度の透明化

International Sustainable Campus Network



AIJ+SCNの国際連携の推進(2008～)

- 施設整備計画・キャンパス計画からサステイナブルキャンパス計画・マネジメント
 - 大学施設の高度化と高質化 …………… 大学施設・環境の高質化
(オンカリキュラム対応型計画) (オンカリキュラム+オフカリキュラム対応型計画)
 - キャンパス長期計画 …………… サステイナブルキャンパスマスタープラン
 - 施設マネジメント …………… 総合的マネジメント
(利用効率/エネルギー効率) (FM/アセットマネジメント/エリアマネジメント)
(グリーンエネルギー/環境配慮型交通…)

■ International Sustainable Campus Network (SCN/EU)

- 主要なアウトカム
 - キャンパスMPとマネジメント
 - ・フレームワークと内容/実現戦略
 - ・計画要素とマネジメント体制・手法
 - エネルギー配慮の可能性
 - ・環境配慮型施設/交通/インフラ
 - CMPの推進と結びついた環境負荷配慮などの環境教育による実現化

■ 日本建築学会キャンパス計画小委員会 (AIJ/日本)

- 主要なアウトカム
 - 社会経済変化に対応した大学キャンパスの計画とマネジメント
 - 高質な次世代のキャンパス像 (施設と環境/国際スタンダード)
 - 国内外の先導例/情報収集
 - サステイナブルな施設・環境の計画・マネジメントの方向性
 - 地域と大学の連携によるサステイナブルな地域再生とマネジメント

